



彦根市立病院

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地

TEL : 0749-22-6050(代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室

TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093



あけましておめでとうございます

個々の患者の病態を評価し 治療方針を決める糖尿病教育入院

糖尿病代謝内科主任部長
黒江 彰



日頃は地域連携にご協力をいただき厚くお礼申し上げます。当科は3人体制で糖尿病/内分泌疾患の診療にあたっています。入院患者に関しては矢野副院長をスーパーバイザーとして菱澤、黒江が担当しています。糖尿病は自己免疫疾患である1型糖尿病や2型糖尿病以外に、妊娠および薬剤や他の病気からも引き起こされる高血糖をきたす疾患です。慢性疾患とされていますが、正常血糖から数日で急激に血糖が上昇し、時に1000mg/dLを超える劇症1型糖尿病は、治療が遅れると命にかかわる危険な疾患で当院でも時々経験します（うち1例はかかりつけの先生からの紹介で判明）。

最近は大合併症や大血管障害の悪化で、受診あるいは紹介されるケースが多く、他科とも連携して合併症の治療に取り組んでいます。糖尿病の治療方針は医師によって大きく違うので、その治療法に一言お持ちの先生も多いと思いますが、京都大学の関連病院である当科では、こちらの方

針も提示しながら先生方と連携し治療していけたらと思っています（入院させた患者さんを見に来られるかかりつけの先生とは情報交換をする機会をいただいています）。当院の教育入院では医師以外の看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、リハビリ技師、口腔外科スタッフなどによる糖尿病教室を通じて、糖尿病の本質を初期のうちに患者さんにご理解いただき、その後の先生方における外来通院の大切さを学んでいただく場としています。

初めて診断を受けた患者さん、診断を受けても治療せず受診した患者さんがおられましたら、初期治療について当院へ問い合わせいただき、患者さんの理解が得られれば短期間でも（約12～13日間の教育入院を基本にしていますが、1週間入院、注射指導用の3日入院およびリブレプロを用いて血糖変動を知る3日入院など臨機応変に対応可）入院治療のお役に立てれば幸いです。

糖尿病教育入院

1
2020

◆教育入院にふさわしい患者

初めて発見され治療を開始する患者

最初にどのような糖尿病の教育をするかで、患者さんの糖尿病治療に対する取り組み方が変わります。患者さんに「痛くも痒くもないので適当でいいか」と思わせたら私たちの責任だと考えています。

血糖管理不良で内服では治療が難しくインスリンなどの注射薬剤が必要と思われる患者

導入の技術的な指導、血糖測定手技などの短期間入院を引き受けます。

24時間の血糖の変化を知る必要のある患者

リブレプロ(持続血糖モニタリング)を使用し1日の血糖変動を測定します。



糖尿病の合併症などの検査が必要な患者

診療所で測定機器などがなく、合併症の検査が難しい場合は当院へご依頼ください。

◆入院期間

臨機応変に入院期間を検討します。

基本的な入院期間	早めに安定したら	短縮要望があれば	・インスリン・血糖測定指導のみ ・検査のみ ・リブレプロによる血糖変動の把握
12～13日間	10日間	1週間	2～3日間

◆教育入院中に行うこと

- ・眼科医による眼底検査
- ・腎症のステージとそれに対する食事療法の指導
- ・神経障害(末梢神経障害と自律神経障害)の評価
- ・CTなどによる内臓スクリーニング
- ・頸動脈エコーによる大血管障害のスクリーニング
- ・循環器的評価
- ・糖尿病教室

ぜひご紹介を お願いします！

かかりつけ医で治療しながら栄養指導のみ当院へ依頼していただくシステムもあります。遠慮なくご利用いただければ幸いです。

糖尿病教室

1週目	内容	担当
火曜日	糖尿病とは合併症	糖尿病専門医 黒江 彰
水曜日	口腔ケア 糖尿病と口腔疾患	歯科衛生士 口腔外科医師
木曜日	フットケア 運動療法の実際	病棟看護師 理学療法士
金曜日	食事療法の実際 食品交換表の使い方	管理栄養士

糖尿病教室は短期入院を意識し、1週目のメニューを医師、口腔外科医師、歯科衛生士、看護師、管理栄養士、理学療法士など糖尿病チームスタッフでプログラムしています。

2週目	内容	担当
火曜日	糖尿病合併症 『ブライとミライ』	糖尿病専門医 ビデオで解説
水曜日	低血糖 シックデイ	糖尿病担当医師 菱澤 方洋
木曜日	日常生活の注意点 『糖尿病グラフィティ』	病棟看護師 ビデオ上映
金曜日	『生活習慣病から血管を守ろう』 糖尿病の検査	ビデオ上映 検査技師

2週目は更に知識を深め、日常生活へのヒントを中心に考えています。

糖尿病療養指導

糖尿病の療養は、患者さんの日常生活を聴くことから始まり、入院生活においては、療養の基本を学び、自分の生活に応用する技術を身に付けていく場と考えています。

①日常生活の聴取

生活リズムと薬物療法が合っているのか、就業時間や仕事内容が食事や血糖変動に及ぼす影響がないかなど、生活を見直すだけで、血糖値が良くなることもあります。入院で食事内容が変わるだけで、これまでの治療を何も変えずに大幅に血糖値が改善することもあります。

②糖尿病や療養の基本を学ぶ

糖尿病教室で疾患の知識、合併症の話、管理方法、検査データの見かた、食事療法、運動療法、口腔ケアの必要性、フットケアの方法などのセルフケア技術を習得できるような内容でプログラムを考えています。

③自分の生活に応用する技術

生活とともにある慢性疾患であるため、入院生活で学ぶことより、日常生活に早く戻り、療養を生活の中に組み込んでいけるよう、短期間のパスを作成し、ご入院いただくことも可能です。大きく血糖コントロールを乱してしまう前に、1週間や3泊4日の入院で患者さんに負担をかけず、少し生活を見直す動機付けにさせていただくことができます。

糖尿病看護ケア外来

糖尿病代謝内科受診時に
予約をとってください。

入院生活で学んだセルフケア技術が継続して行えるよう、「**糖尿病看護ケア外来**」でフォローアップできるようになっています。

「糖尿病看護ケア外来」では、「**透析予防指導**」「**フットケア指導**」などを中心に療養指導、療養相談の窓口を設けています。透析予防指導は**糖尿病腎症がある患者さん**、フットケア指導は**糖尿病神経障害や足病変のハイリスク患者さん(下肢虚血、切断の既往、足潰瘍など既往)**が対象となります。当院の糖尿病代謝内科の医師の指示があれば、糖尿病看護ケア外来で介入することが可能となります。お気軽にご相談ください。



フットケア指導



地域みなさんに
外来糖尿病教室



12月をもって退職となった医師

- ◆ 循環器内科: 綿貫 正人
- ◆ 神経内科: 上古 眞理

今までお世話になりました。
本当にありがとうございました。